鼓童文化財団

2011年度 年次報告と2012年度の計画

はじめに

2011 年度は、文字通り多事多難の年として後世にも伝えられ、大きな時代の転機と位置づけられる年になると思われます。

鼓童グループにとりましては、鼓童結成 30 周年を迎え、新たな 30 年への第一歩となる、心の引き締まる年でもありました。

6 月に、鼓童の 30 年に前史の鬼太鼓座の 10 年を加えて、40 年の活動をまとめた記念誌『いのちもやして、たたけよ。ー鼓童三〇年の軌跡ー』を出版することが出来ました。この出版準備のための資料の再点検作業を行う中で、鼓童の未来への多くの示唆を得ることが出来ました。

また、鼓童文化財団の公益財団法人化への申請事務に努力し、11 月には認可を受けることが出来ました。この作業の過程において、鼓童グループの中での当財団の位置付けと、そのあるべき活動について、改めて認識を深めてまいりました。

鼓童文化財団の使命とは何か。

まず一つめは、「太鼓芸能集団 鼓童」が和太鼓を舞台芸術という形に昇華させたことの背景にあるものを、今度は言葉で組み立て、広く伝えていくことだと考えます。

言葉が介在しないため、海外でも和太鼓の魅力はすぐに感じ取ってもらうことができます。しかし目の肥えた観客も増えてきました。彼らは、表面に見えるものだけではなく、その奥にある文化的な背景についても知りたいという欲求が高まっているのです。

二つめは、広く社会で活躍できる創造性をもった人材を育成することです。

表現（＝芸）には、その人の生活や考え方が全部表出してきます。「太鼓芸能集団 鼓童」の伝承者を育成するということは、すなわち「人づくり」をすることにほかなりません。

その意味で、鼓童文化財団研修所は、「くらす･まなぶ･つくる」という、鼓童が活動していくにあたって基本に掲げている考え方、つまり人間本来のあり方を学び、自分を創り上げていくための、実践の場であるべきだと考えます。

そして三つめは、「佐渡」への関わりです。

様々な生活習慣、農耕習俗と密接につながる祭りや芸能が数えきれないほど存在する。この佐渡のように、日本の「原型」とも呼べる暮しが残っている地域は、おそらく他にはありません。

この佐渡の魅力を内外に伝え、文化・観光振興や交流人口の増加を図り、少子高齢化、後継者不足により衰退が進む地域を活性化し、我々を長年にわたり育んでくれた佐渡への恩返しを、少しでもさせていただきたいと考えております。

2012 年は、佐渡の小木地区で続けてまいりました「アース・セレブレーション」が、25 周年を迎えます。

この「アース・セレブレーション」の精神は、当初と変わるものはございません。多様な文化を携えて人々が行き来し、身体と心で感じ合い、理解し合う交流の場を作ること。さらに全島的に理解、共感の輪を広げていくことが、今年度の我々の課題となることでしょう。引き続き地域に学び、発信してまいります。

今後とも、皆様の更なるご支援とご鞭撻を重ねてお願い申し上げます。

2012 年 4 月

公益財団法人　鼓童文化財団　理事長　島崎信

― 鼓童グループの活動理念 ―

私たちは、太鼓とともに世界をめぐり、
多様な文化や生き方が響き合う
「ひとつの地球」を目指します。

◎しまざきまこと

東京生まれ。武蔵野美術大学名誉教授。国際的なモダンチェア研究者で北欧建築デザイン協会理事、日本・フィンランドデザイン協会理事長、NPO 東京・生活デザインミュージアム理事長などを務める。近年は新潟の上越と佐渡において地産材を利用した家具「アースファニチャー」のデザインを行う。鬼太鼓座創設に関わり、また鼓童創立前からの相談役であり、2004 年より財団法人鼓童文化財団理事長。

【主な著作】「近代椅子学事始」「デンマーク・デザインの国」「美しい椅子（全５巻）」「ノルウェーのデザイン」ほか

2011 年の活動概要

鼓童結成 30 周年を記念し、年間を通じて様々な企画や催しが行われました。

■「鼓童の 30 周年レセプション」

2 月 9 日　アメリカ・ロサンゼルス／西本願寺

約 20 団体から約 250 名の参加者が集まってくださいました。キンナラ太鼓に所属し、KASA（鼓童アーツスフィア・アメリカ）の事務局長を務めるドナ・エバタさんが中心となり準備を進めてくださいました。彼女からの提案で、古くから親交のあるグループに加えて、大学の太鼓グループ等、若い人たちの参加を積極的に募ってくださいました。

3 月 14 日　アメリカ・ニューヨーク／アジア・ソサエティ

昨年 12 月から今年 4 月まで小澤征爾氏を芸術監督として開催中の、カーネギーホール・ジャパンフェスティバルの一環として「鼓童結成三〇周年の祝祭」と題して開催されました。しかし、東日本大震災直後ということで、犠牲者への追悼と被災者への支援を呼びかける場ともなりました。

両会場で、鼓童の 30 年の歴史を紹介するプレゼンターを菅野敦司が務めました。

■鼓童結成 30 周年記念出版事業『いのちもやして、たたけよ。ー鼓童三〇年の軌跡ー』（発行：出版文化社）

初代代表の故・河内敏夫の誕生日にちなみ、6 月 26 日に初版を発行いたしました。

この本は、日本図書館協会が選定する選定図書にも選ばれました。

■鼓童結成 30 周年記念展示　「鼓童 30 年の歩み」展

『いのちもやして、たたけよ。』の編集作業の過程で見つかった様々な写真を改めて年代順に整理し、年表とともにパネルを製作、過去のポスターなどと共に展示を行いました。

鼓童結成 30 周年記念出版
『いのちもやして、たたけよ。ー鼓童三〇年の軌跡ー』

8 月 19 日～ 22 日　天南荘（佐渡市小木町）（主催：EC 実行委員会）

11 月 28 日～ 12 月 11 日　新潟県民会館　展示コーナー（主催：TeNY テレビ新潟、（財）新潟県文化振興財団）

東日本大震災復興支援活動

「Heartbeat Project」と名付け、鼓童グループ全体で取り組みを行っています。

（鼓童文化財団としての活動は 4・5 ページをご覧ください。）

［メッセージ］

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災を目の当たりにし、私たちは大自然の持つ力にただただ圧倒されるばかりでした。また、そこから改めて見えてきた現代社会を支えるシステムについての問題は、私たちが真摯に向き合わねばならない課題を提示しています。

結成 30 周年を迎えた私たちは、人間が生きる力と、その象徴としての脈打つ鼓動を常に思ってきました。自然と共存し、わき上がる祈り。そしてそこから生まれる芸能が持つ力を信じて立ち上がり、前を向き、改めて歩み始めます。

思いを舞台や音楽に込めて届けること、困難な生活を続ける方々を支援していくこと、継続的にメッセージを発信して、国内や世界に対して関心を喚起し続けることを軸に、私たちはハートビート・プロジェクトという活動を始めました。皆様と共に、祈りを込めて。

「鼓童 30 年の歩み」展
上：新潟県民会館　展示コーナー
（写真提供：（財）新潟県文化振興財団）
左：佐渡市小木　天南荘
（写真：山口康子）

公益財団法人化

■公益財団法人移行の経緯

この度の公益財団法人への移行は、1896 年（明治 29 年）に制定された民法の公益法人に関する規定が 2006 年（平成 18 年）に 110 年ぶりに改正されたいわゆる「公益法人改革」への対応として行われました。この法律改正の背景には、日本政府が明治以来続けて来た官の統治下の公益法人制度を、市民の、市民による、市民のための制度に脱皮させるという意味があります。

そして、新制度では事業の公益性の有無にかかわらず設立できる「一般財団法人」と、民間有識者による委員会の意見に基づき行政庁が公益性を認定する「公益財団法人」の二つの法人格が生まれました。

公益財団法人の認定を受けるメリットとしては、名称の面から活動の「公益性」が分かり易くなります。また、公益目的事業として認められた活動は非課税となる他、「特定公益増進法人」という免税団体の認定への道が開け、鼓童の会に入会または寄付をいただいた際に税額控除が適用される点があります。

新法人の公益目的事業

①伝統文化の調査研究を通して、芸術文化の振興を図る事業

②研修および体験学習を通して、芸術文化と地域社会の担い手を育成する事業

③国際的な文化交流および地域資源の活用により、地域活性化を図る事業

④その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

第 3 種旅行業を登録

■鼓童ならではの募集型企画旅行が可能に

佐渡市と隣接する市町村の区域内で催行する募集型企画旅行が実施できるようになりました。また、お客様に代わって旅行の手配を行うこともできるようになりました。

11 月 12 日～ 13 日　「雄大な大地の遺産小木半島周遊と小木三崎のなりわいに触れる 2 日間」を実施。
鼓童文化財団の第 3 種旅行業取得に伴い、小木地域の活性化を考える「佐渡おこしチャレンジ事業　モニターツアー」を実施。海上から小木半島の景観を眺めたり、宿根木公会堂での夜語りなど、財団初となる添乗員資格取得者、菅野敦司の添乗により、10 名の参加者の皆さんに地元の方々とたっぷり触れ合っていただきました。
（主催：小木三崎百年プロジェクト協議会）

たたこう館で初の太鼓合宿を開催

■３月４日～６日　たたこう館ぷれぜんつ「鼓童 藤本吉利と太鼓合宿～太鼓で唄う、佐渡で語らう～」

たたこう館で初の開催となる 2 泊 3 日の「太鼓合宿」を実施。講師は藤本吉利。大太鼓を中心に、唄や踊りなどを通じて交流していただきました。藤本が歩んできた太鼓人生とスピリットに触れながら、幅広い世代の方々が熱く叩き合い、語り合う場が生まれました。（参加者数 13 名）

鼓童の会の運営

■新たな支援体制を発足

5 月より「支援会」と「特別支援会」を立ち上げ、会員の募集を開始しました。

■懇談会の開催

12 月 10 日　青山劇場での長期公演の期間中に、鼓童文化財団の年間活動報告会と懇談会を開催しました。座長を理事長の島崎信が務め、賛助会会員を中心に鼓童の会会員 14 名の皆さんのご参加をいただきました。（青山こどもの城・研修室）

広報活動・その他

■「鼓童活動紹介パネル」展示

8 月 7 日　直江津港フェスティバル（佐渡汽船ターミナル内でのブース出店と展示／主催：直江津港フェスティバル実行委員会）
12 月 8 日～ 18 日　こどもの城青山劇場･地下ロビー（鼓童ワン･アース・ツアー結成 30 周年スペシャル公演期間）

■講演

3 月 4 日　大阪・心斎橋「里山のグローバル・マネージメント」シンポジウムでの講演（菅野敦司）

■機関誌の発行

1 月　「月刊鼓童」300 号達成（新年号）
4 月　1987 年 1 月より年 4 回発行していた英文機関誌「the Kodo beat」が vol.96 をもって終刊

「藤本吉利と太鼓合宿」（写真：上之山博文）

ハートビート・プロジェクト

Heartbeat Project

上:2011年7月、気仙沼大島を離れる船にて。この日一緒に作業した地元の方やボランティアの方が見送ってくれました。（写真提供:関根太鼓店）

右:2004年、気仙沼市立大島中学校での交流公演の翌日に、島を離れる私達を生徒さんがサプライズで見送りに来てくれました。（写真:今海一樹）

東日本大震災を受け、復興への願いをこめて、プロジェクトを立ち上げました。鼓童グループとしてできることは何かということを考えながら、継続的に取り組んでいます。以下は鼓童文化財団としての取り組みを中心に報告いたします。

東日本大震災被災地への義援金の呼びかけ

4月号機関誌、ホームページ、鼓童ワン・アース・ツアー公演会場、佐渡太鼓体験交流館（たたこう館）などを通じて、東日本大震災の義援金への協力の呼びかけを行いました。

5月10日までの期間にいただいた合計188,818円を「日本赤十字社」へ送金いたしました。

また、ワン・アース・ツアーの公演会場とたたこう館で5月～7月までの間に募金の呼びかけを行い、鼓童文化財団からの寄付金を合わせた合計10万円を「RQ市民災害救援センター」への活動支援金として、8月31日付で送金いたしました。

（この他、（株）北前船では3月15日～9月末日の鼓童オンラインストア売上げの5%を「日本赤十字社」へ義援金として寄付させていただきました。また、募金活動を目的としてハートビート・プロジェクトのイラストロゴ入りのうちわを製作、販売しております。）

皆様、ご協力誠にありがとうございました。

9月11日　アミューズメント佐渡で行われた東日本大震災復興支援チャリティコンサート「ぼよよん共和国 Project in 佐渡」を後援。

チケット販売・宣伝協力のほか、鼓童から、スタッフと研修生計10名が当日の運営スタッフとして参加しました。

（出演：中西圭三、佐和田中学校ブラスバンド部、ウィンドアンサンブル佐渡、ジャズダンススタジオPALほか、一般参加の皆さん）

寄せられた参加費（チケット売上金）は、全国離島振興協議会を通じ、宮城県気仙沼大島へ義援金として寄付されました。

中央が中西圭三さん。中西圭三さんの曲で地元ブラスバンドが共演し、子ども達も踊りで加わりました。終演後には、義援金の授受式と黙祷が行なわれました。
（写真提供：ぼよよん共和国 Project in 佐渡実行委員会）

RQ市民災害救援センターについて
NPO法人日本エコツーリズムセンターが中心となって、団体の活動に賛同した市民有志により結成。東日本大震災の被災地の最前線でボランティア活動を組織し、運営を行いました。http://www.rq-center.net/

「ハートビート・プロジェクト」シンボルロゴ「こどうくん」:デザイン●紀ハルナ
このプロジェクトのシンボルロゴは、ガッツポーズがハートの形になった「こどうくん」。紀さんは、これまでにCD「一管風月」のジャケットや、鼓童の会のロゴマークのデザインも手がけてくださっています。

伝統芸能復興支援活動

報告：千田倫子

■陸前高田市気仙町へ

震災後、東北沿岸部の芸能の状況を知りたいと現地を訪ねた五月。一関市の関根太鼓店さんに情報をいただきながら、具体的に辿り着いた場所が、そこに町があったことが信じられない光景の陸前高田であった。祭りに熱い思いを向けていた方の消息を、避難所や仮設住宅を辿って訪ねあて、お話を聞いた。

八月、その陸前高田市気仙町で例年の祭りの日に「けんか七夕（たなばた）」の山車が運行されると聞き、現地へ再び駆けつけた。

町民が避難所や仮設住宅に離散している上に、山車の修繕や飾り作りの作業ができる場所も無い状況で、祭り実現は誰の目にも困難と映ったそうだ。しかし、三十代の若衆達の熱い思いが地域の年配者や周りの人々をつき動かした。その思いとは、震災で亡くなった方々の供養と、離散した気仙町民が久々に集まり、心に刻まれている祭りを味わって、また前を向いていこう。そして自分達が地域を担っていくんだ、という宣言でもあったと思う。子ども達のはじけるような笑顔、太鼓を叩きながら涙が溢れ出る若衆、すべてを見尽くし見守っているような眼差しの年配の方々。人々の思いが綴られた短冊をなびかせながら、跡形も無くなった町を山車が曳かれていった。

若手の代表の方が祭りの最後、叫ぶように呼びかけた。「役員の人達、今の惨状だけ見て町内会解散なんて言わないでくれ。青年部はあきらめない。気仙町から離れたくねえんだよ、またここさ家建てて、みんなで暮らしてえんだよ。これから一歩ずつ進んで、気仙町の七夕、復活させるぞ。絶対やるぞ!」

山車は、ただ一つ津波の被害を免れた下八日町のものに、それだけが生き残った鉄砲町の芯棒が組み合わされていた。4つの町の、違う半纏を着た男達が、一つの山車に思いを合わせた。（写真：千田倫子）

■「けんか七夕」について（岩手県指定無形民俗文化財）

陸前高田市気仙町のけんか七夕の起源は、900年ほど前、先祖慰霊のために行われたものと伝えられている。毎年、8月7日に地区ごとに山車が出て、町内を練り歩く。山車は、太い欅の丸太を輪切りにしたものを車輪とし、その上に櫓を組んで、割り竹に色とりどりの和紙で飾り付けがされる。お囃子の太鼓や笛は、その櫓の上で奏され、2本の曳き綱をそれぞれ200人ほどがかけ声をかけながら練り歩く。時に、山車と山車を豪快にぶつけ合うので、「けんか七夕」と称され、人々に愛されてきた。昭和40年頃、存続の危機にあったが、お囃子の保存会発足と、山車一台で乗り切り、2010年までは、四つの町内の山車が七夕の夜を彩っていた。2011年8月7日は、離散した住民の皆さんの熱い思いで困難を克服し、被害を免れた山車一台を飾り付け、気仙町を練り歩いた。

■私達にできることは何か

地域に思いを注ぐ人達のおっしゃることはただ一つ、祭りは人の暮しがなければ存在しない、この土地に人を戻すということ。ふるさとをそれでも愛する心、希望の持続、町の復興計画…それらを繋ぎ止める力になる「祭り」。地元の方にとってこの度の運行は、まだ復活ではない。復活と言える日まではまだ道のりが長いだろうが、お話に耳を傾けながら、私達も一緒に希望を持ち続け、明日を見つめたい。まずは、今年の8月7日に向けた動きの情報収集から。その状況を発信し、多くの方々と共有することが私達の歩みと考えています。また、ご縁のあったその他いくつかの土地の方々の状況も調査を進めてまいります。

■気仙町の支援情報

気仙すぎのこ基金　http://suginokofund.com/
（気仙町内の小中学校への復興支援基金）
こちらのサイトで「気仙町けんか七夕まつり」の動画を見ることができます。

■情報をお寄せください

祭りや芸能の復興が、地域コミュニティの再生の大切な要素であると考えます。東北の方々の芸能や祭りへの思い、そして記憶を風化させないため、被災地の祭りや芸能に関する情報をぜひお寄せください。

復興に向けて、共に歩んでいきましょう。

活動の柱 1　伝統文化の調査研究を通した芸術文化の振興

■ 2 月 20 日 「鬼太鼓の伝播を探る・第 5 回」への協力
（主催：NPO 法人佐渡芸能伝承機構）
出演：八幡、羽茂、多田・黒根、赤玉、春日町の各集落の皆さん
※ 5 回の開催で、計 18 団体の方々に参加していただきました。

「鬼太鼓の伝播を探る」ポスター

■佐渡の祭り調査
鼓童機関誌「月刊鼓童」に佐渡の祭りを紹介する記事「佐渡のお祭り、全部みるぞ!」を掲載。
2011 年は、多田集落の祭りを取材。（11 月号）

■研究者への支援
新潟大学教育学部 4 年生（森下修次ゼミ）の高井聡恵さんの卒業論文の調査実験に協力。
テーマ「太鼓の音色の違いは何から生じるか」

前浜地区にある多田集落の祭り風景。（写真：花岡哲海）

活動の柱 2　研修および体験学習を通じた担い手育成

■研修所
2011 年 4 月から 2012 年 1 月まで、佐渡市柿野浦の研修所（旧岩首中学校校舎を活用）で、1・2 年生合わせて 18 名が研修生活を送りました。
2012 年 1 月をもって 1 年 10 ヶ月の研修を修了した 29 期生は 7 名。このうち 4 名が準団員として生活の場を鼓童村に移し、稽古をスタートさせました。
10 ヶ月間の総合課程を修了した 1 年生は 11 名。そのうち 8 名が 2 年生に進級しました。2012 年 4 月には新 1 年生 8 名が入所します。

2011 年度研修生一覧

[29 期生]
荒賀友夏子
安藤明子（準団員）
井上陽介（準団員）
木村寛大
木村匡宏
住吉佑太（準団員）
花岡哲海（準団員）

[30 期生]
兎洞摩衣子（修了）
漆久保晃佑
喜田千智
地代 純
ソーヤー・嶺・イアン（修了）
野添悠子
福島雅仁
藤崎大助
真崎滉大
三浦康暉
安武晃尚（修了）

2011 年に実施した主な稽古・研修

太鼓　見留知弘、齊藤栄一、船橋裕一郎、辻勝ほか
踊り　小島千絵子、石原泰彦（剣舞）、大井キヨ子（佐渡おけさ）、千田倫子（さんさ）、金城光枝先生（琉球舞踊）
唄　藤本容子、岡田京子先生（7 月）
笛　山口幹文、狩野泰一さん
身体基礎　金子竜太郎さん（年 5 回）

研修所の稽古場で、船橋裕一郎による稽古。（写真：西田太郎）

能　　松永政雄先生（「羽衣」の謡／10月～月2回）
狂言　　小笠原匡先生（「松ノ舞」の謡と舞／3月、6月）
茶道　　桃井宗生先生（月2回の稽古／お茶会への参加等）
講義　　十文字修さん（たらい舟）、佐々木邦基さん（農業）、
　　福嶋徹夫先生（漁業）ほか
造形　　葛原正巳さん（陶芸）ほか
俳句　　赤塚五行さん（吟行等）
くらし　　岩崎ちひろさん（魚のさばき方）ほか
農作業　石原泰彦、大井キヨ子ほか
自由研究　菅野敦司
サンバ　山口康子（打楽器演奏）

祭りへの参加（4月柿野浦、9月岩首）
佐渡島内の祭り見学（浜河内、羽茂、相川ほか多数）

実地研修ほか
鼓童舞台メンバーとの合同稽古、鼓童舞台メンバーの稽古見学、佐渡島内の鼓童公演、アース・セレブレーション等でのイベントの現場体験、ワークショップのアシスタント、アミューズメント佐渡での「劇団四季」公演におけるスタッフ体験
酒蔵見学、学校林整備作業、牧場の草刈り、島内イベントへのボランティア参加　など

たくさんの方々にご指導いただきました。ありがとうございます。

6月、羽茂祭りにて。草苅神社能舞台で謡を披露。（写真：山口康子）

9月、岩首の祭り。13晩の稽古を経た研修生が師匠に見守られ鬼を打つ。（写真：石原泰彦）

活動の柱 3　地域資源を利用した地域活性化

(1) 佐渡太鼓体験交流館（たたこう館）

■太鼓体験
4～10月　修学旅行の受け入れ（97校、計3,062名）
5月3日、5日　GW特別企画「しんちゃんせんせいと太鼓体験」（計6回開催）
8月12日～18日　ECプレイベント「たたこう館体験ウィーク しんちゃんせんせいと太鼓体験」を開催。
その他、通年で太鼓体験を提供。

太鼓体験講師：十河伸一（しんちゃんせんせい）
大阪生まれ。1981年から約10年間、鼓童舞台メンバーとして30カ国で1,000回を越える公演に参加。2007年4月より佐渡太鼓体験交流館の講師となる。

■イベント
3月21日　「小木フリマ@たたこう館」を開催
※東日本大震災の義援金の募金箱を設置。また、出店料の一部を義援金にさせていただきました。

5月4日　「たたこう館皐月まつり」開催
合わせて延べ600人が来場しました。
◎たたこう館　小木三崎春のミニ新鮮市場（地元の特産品等の販売）、小木三崎カフェ（手打ちソバ、イカボール丼）、ものづくりワークショップ（土人形絵付け／刺し子／オリジナルクラフト）、「時を彩る芸能」：しんちゃんせんせい／虫紋座（文弥人形）／小木語り部の会／鼓童研修生／小木祭り太鼓（参加型）
◎旧・深浦小学校体育館　「鼓童の交流公演」
※旧・深浦小学校体育館の利活用のために、「鼓童の交流公演」の入場料の5%を「深浦小学校体育館活用委員会」に寄付いたしました。
「深浦小学校体育館活用委員会」は、旧学区の各集落の嘱託員や地域の団体などで構成され、事務局をたたこう館に置いています。

たたこう館皐月まつり。「虫紋座」による文弥人形芝居。（写真：上田恵里花）

5月19日　権藤芳一講演会を開催
『日本の芸能の期限、歴史～佐渡の芸能について』
権藤芳一氏：京都観世会館の事務局長として30年勤務の後、大阪学院大学国際学部で古典芸能を平成13年まで講ずる。著書「近代歌舞伎劇評論家」「世阿弥を歩く」「上方歌舞伎の風景」など多数。

12月17日、18日　「ちんどん鼓童プレゼンツ　サミーちゃんと一緒にたたこう」（ワークショップと演奏）
出演：宮崎正美、鬼澤綾子、前田剛史、小松崎正吾、立石雷

(2) 佐渡島内の地域貢献活動

■岬組（事務局）
2月12日　深浦小学校の閉校式。
学校の活動として行われていた「岬太鼓」を、卒業生が中心になって行なっている「岬組」に統合して継続。事務局をたたこう館に置き、指導は、大井良明、石原雅美が担当しています。
「岬組」について
練習場所には旧・深浦小学校の体育館を活用。小木小学校運動会や、小木港祭り等への出演の他、小木三崎地区の集落の祭りで小・中学生が演奏を行うなど、「岬太鼓」を小木三崎の芸能として定着させる試みを積極的に取り組んでいる。

■「町人文化のまち小木の歴史を生かしたまちづくりワークショップ」に参加
佐渡地域振興局主催で3回にわたって行われたワークショップに参加し、その後、地元の住民の自主運営で開催する「小木まちづくり井戸端会議」にコアメンバーとして関わりました。
6月30日　「茅の輪祭り」での鼓鈴の会（小木町の和太鼓グループ）・岬組の演奏にゲスト出演（藤本吉利）
8月19日～21日　小木の情報案内、まちなかの休憩スペース、町内の竹風鈴による装飾等、EC期間の協力を呼びかけました。

■「小木三崎百年プロジェクト協議会」との協力
旧小木町の有志・団体により構成される地域づくりの協議会で、事務局をたたこう館に置いています。

11月10日　内山節講演会を、たたこう館で開催。
『都市住民にとって村の魅力とは～ムラとマチの良い関係づくりを考える～』（主催：小木三崎百年プロジェクト協議会）
内山節（たかし）氏:哲学者。著書「文明の災禍」「<里>という思想」等多数。
※農林水産省「食と地域の交流促進事業」として実施。

11月12日～13日　「雄大な大地の遺産小木半島周遊と小木三崎のなりわいに触れる2日間」を実施しました。

■アースファニチャー
「佐渡地区緑の少年団」でアースファニチャー（佐渡産杉）のベンチのキット60台をご購入いただきました。8月10日に交流集会が行なわれ、参加した市内中学校10校の生徒約300名がベンチを製作。完成したベンチは各学校へ持ち帰ったほか、島内の福祉施設や体育施設等へ寄贈されました。

■ボランティア等、スタッフによる地域活動
◎大井キヨ子
2月15～19日　人形劇「佐渡おけさ」（図書館活動）

2月26日、3月16、21日、4月22日、5月4、14、18日、6月15、18日、7月13日、9月10、14、23日、10月15日、11月5、16日、12月14、17日　「刺し子教室」講師

9月28日　「小木寿学級刺し子ワークショップ」

5月1～4、16日、6月11、16日、7月22、23、29、30日、8月5～7、20、30日、9月6日、10月22日「小木さざ波会」に参加

◎山口康子
佐渡「羽茂昭諷会」参加
6月18日　相川「春日神社能舞台公演」（小鼓方）

◎春日志津
6月4日　佐和田「下越吹奏楽連盟 吹奏楽講習会」講師

■研修生による交流公演、ワークショップ等の実地研修
2月 15日　「行谷小学校 太鼓ワークショップ」
5月 19日　「日本自然環境専門学校 太鼓ワークショップ」
6月 23日　「松ヶ崎中学校 交流会（春）」
9月 27日　「佐渡特別支援学校太鼓ワークショップ」
（指導：千田倫子）
10月 6日　「海星幼稚園　太鼓ワークショップ」
12日　「金井中学校 交流学校公演」（指導：辻勝）
14日　「前浜小学校 交流会」
20日　「松ヶ崎中学校 交流会（秋）」
27日　「羽茂保育園　太鼓ワークショップ」
28日　「金井地区・公立保育園太鼓ワークショップ」
30日　「小倉小学校　太鼓ワークショップ」
31日　「両津地区・公立保育園 太鼓ワークショップ」
（指導：記載のないものは石原泰彦）

研修生による太鼓劇「太鼓レンジャー」は、保育園ワークショップでの恒例企画。研修生自らがシナリオ、配役等を決め、これまでに習った様々な演目を取り入れながらストーリーを展開します。背景には、仲間との友情や困難を乗り越える勇気など、子ども達に伝えたいテーマが込められています。（写真：石原泰彦）

活動の柱 4　国際的な文化交流

■アース・セレブレーション 2011

【城山コンサート】　演出：船橋裕一郎
8 月 19 日　「ラアナーイー・ファミリー&鼓童」
　　出演：鼓童、ラアナーイー・ファミリー
　20 日　「祝祭」
　　出演：鼓童、ラアナーイー・ファミリー、弧の会
　21 日　「鼓童」出演：鼓童

【ECシアター】
21 日「Ryutaro, Kano & Saga × Ranaei Family」
出演：ラアナーイー・ファミリー、金子竜太郎、
狩野泰一、嵯峨治彦

【ワークショップ】
19 日　藤本吉利（鼓童）「あなたも大太鼓打ちに!」
19 日　今海一樹（鼓童）「チャッパ大好き」
19 日、20 日　蘭情「蘭情さんの笛工房」
19 日、21 日　三宅島芸能同志会「三宅太鼓」
20 日　浅沼宏雄「八丈太鼓」
20 日　狩野泰一「篠笛を吹いてみよう」（初心者篇）
20 日　小木さざなみ会「小木おけさ 地方（じかた）と踊り」
21 日　宮崎正美（鼓童）「打たにゃドンドン !」（学生篇）
21 日　弧の会「日本の『をどり』をカラダで感じよう!」
21 日　両津・春日鬼組「春日鬼太鼓」
21 日　赤塚博明「小木の竹かご作り」

【特別フリンジ】
19 日　ダンスナイト ～鼓童村囃子連
20 日　鼓童パレード
20 日　狩野泰一 with 今泉孝文 LIVE
20 日　八丈太鼓
20 日　小木おけさ
20 日、21 日　三宅太鼓
21 日　宵のゆんづる
21 日　佐渡の芸能
春日鬼太鼓（春日鬼組）、
豆まき（八幡青年会）、
鬼太鼓・民謡踊り（羽茂中央青年会）

【展示】
19 日～ 22 日
写真展「鼓童 30 年の歩み」
19 日～ 21 日
作品展「笛師 蘭情展」

【その他】
19 日～ 21 日　ハーバーマーケット
ハプニングステージ／アート&メッセージスペース／東北和ろうそく
キャンドルナイト／ EC+O（リサイクルテント）

【EC プレイベント・関連イベント】
12 日～ 18 日 EC プレイベント たたこう館太鼓体験ウィーク
「しんちゃんせんせいと太鼓体験」講師：十河伸一

17 日、18 日「佐渡薪能公演」（主催：（社）佐渡観光協会）
出演：津村禮次郎（能）、小笠原匡（狂言）、
森山開次（ダンス）ほか
◎ 17 日　第一夜 椎崎諏訪神社能舞台公演
狂言「歌争い」、能「融（とおる）」、ダンス「Shakkyou」
◎ 18 日　第二夜 春日神社能舞台公演
狂言「井杭」、半能「石橋（しゃっきょう）」、
ダンス「Shakkyou」

19 日、20 日　ワークショップ「Music Together」

■「第 8 回北米太鼓会議」に参加

8 月 18 日～ 21 日　カリフォルニア・スタンフォード
藤本容子　Voice Circle ワークショップ、パネルディスカッション、
コンサート出演

北米太鼓会議（太鼓カンファレンス）
世界の太鼓愛好者が共通の課題を討議し、また太鼓グループ同士が交流する場として、1997 年より 2 年に 1 度開かれている。多くのワークショップやセミナー、公開討論会、コンサート、太鼓の見本市などが行われる。2011 年は 114 グループ、800 名が参加。北米だけでなく、イギリスや香港からの参加もあった。
www.taikoconference.org

アース・セレブレーション 2011「城山コンサート」（写真：宮川舞子）

2011 年度 決算

貸借対照表　2011 年 12 月 31 日現在　（単位：円）

Ⅰ　資産の部		
流動資産	現金および預金	3,367,591
	売掛金	13,125
	未収金	6,943,867
	仮払金	429,045
	その他	1,773,822
	流動資産合計	12,527,450
固定資産	基本財産	100,211,931
	その他の固定資産合計	3,658,470
	固定資産合計	103,870,401
	資産合計	116,397,851
Ⅱ　負債の部		
流動負債	未払金	9,579,959
	未払消費税等	70,930
固定負債	長期借入金	6,000,000
	負債合計	15,650,889
Ⅲ　正味財産の部		
正味財産		100,746,962
負債及び正味財産合計		116,397,851

正味財産増減計算書　2011 年 1 月 1 日から 12 月 31 日まで（単位：円）

Ⅰ　正味財産増減の部	
1.　経常増減の部	
(1)　経常収益	
1. 基本財産運用収入	42
2. 会費収入	9,546,000
3. 事業収入	39,169,604
4. 補助金等収入	0
5. 寄付金収入	2,339,741
6. 雑収入	592,049
経常収益計	51,647,436
(2)　経常費用	
1. 事業費	51,353,553
2. 管理費	3,276,933
経常費用計	54,630,486
当期正味財産増減額	△ 2,983,050
正味財産期首残高	103,730,012
Ⅱ　正味財産期末残高	100,746,962

2012 年度 事業計画

ア . 調査研究事業

①佐渡文化に関する調査研究および資料収集

・佐渡の鬼太鼓調査

②伝統文化・文化活動への支援

・小木三崎百年プロジェクト

・廃校プロジェクト

・岬組

・東日本大震災被災地・郷土芸能復興支援活動

③アースファニチャー事業

④年次報告書および関連図書の刊行

⑤図書・音響映像資料の収集整理

イ . 研修事業

①伝統文化の再創造に関する研修および実践

・研修所 総合課程
伝統芸能の基本を学ぶ 4 月～ 1 月 約 12 名

・研修所 専門課程
演者、スタッフ志望別研修 2 月～ 1 月 約 8 名

ウ . 佐渡太鼓体験交流館事業

①佐渡太鼓体験交流館の運営

・太鼓体験、伝統料理教室、ミニコンサート、講演ほか

・佐渡の地域活性化と観光振興（旅行業登録）

エ . 国際芸術祭「アース・セレブレーション」事業

①国際芸術祭「アース・セレブレーション（EC）」の実施

・コンサート、ワークショップ、展示、フリンジほか

・佐渡体験交流フェスティバル（国土交通省補助事業）

オ . アウトリーチ事業

①公演、ワークショップ、講演、シンポジウムなどの開催

・鼓童佐渡特別公演（藤本吉利・小島千絵子・藤本容子・山口幹文他）

・花結北米ツアー（カリフォルニア、ミネソタ、ミシガン）

・鼓童塾（齊藤栄一）

・KASA/MIX（藤本吉利）

・研修生と島内中学生の交流公演

・地域の学校への出前授業及び交流

・KASA ワークショップツアー（小島千絵子）

2012 年度 の新たな取り組み

新たな観光（ツーリズム）を通した佐渡島の地域活性化への取り組み「鼓童佐渡特別公演」

私達が観光事業に携わる理由は、伝統文化・芸能の基盤となる集落の活力を取り戻す力が観光にはあるという考えに基づいています。

地域が外から人を迎えることで、賑わいが生まれ、集落の経済が活気づくと同時に、歴史・文化・自然などの地域資源の価値を地元が再発見し、訪れた人と共に、保存・活用など地域の課題を解決できる効果が期待されます。

2012 年は、鼓童が今まで行うことができなかった佐渡での長期公演が初めて実現します。

本公演をきっかけに佐渡に訪れる人が少しでも増えるよう、また佐渡島内に滞在中の旅行者には小木まで足を延ばしていただき、宿根木集落の歴史的な町並みや三崎地区の豊かな自然に触れていただけるよう、新たな佐渡の魅力を発見していただける一助になればと考えています。

「鼓童佐渡特別公演」実施実施予定
＜春＞ 4 月 27 日（金）～ 5 月 6 日（日）
＜夏＞ 7 月 6 日（金）～ 7 月 16 日（月・祝）
＜秋＞ 10 月 12 日（金）～ 10 月 21 日（日）
会場：宿根木公会堂ほか（小木地区）
出演：藤本吉利、小島千絵子、藤本容子、山口幹文ほか

「宿根木集落」と「宿根木公会堂」について

宿根木は、江戸時代に佐渡金山の繁栄とともに回船業の集落として発展した「千石船と船大工の里」。現在、新潟県内では唯一国の重要伝統的建造物群保存地区に指定され、狭い地形に家屋が密集する独特の町並みと、遠く瀬戸内海から運ばれてきた船つなぎ石や石橋などを見ることができます。

周辺には、大正時代の小学校の校舎を利用した「佐渡国小木民俗博物館」があり、江戸時代の千石船を再現した「白山丸」や、佐渡の生活用具等が展示されています。

「宿根木公会堂」は、明治期の建物の前身の材を有効利用しながら、昭和 33 年に建て替えられました。内部は、花道や 2 階に桟敷席があり、昔ながらの芝居小屋の形式をとっています。建て替え前には廻り舞台まで備えられていました。

歴史的な景観としてはもちろん、現在に至るまで集落の人々が実際に活用している場として、宿根木集落に不可欠な歴史的建造物であると言えます。

1970 年には、鬼太鼓座が生まれるきっかけとなった「おんでこ座夏期学校」が行われ、また 1981 年には「鼓童・夏の学校」の会場となった、鼓童とご縁の深い場所でもあります。

築 50 年を越え老朽化も進んでおりますが、歴史的価値の高い建造物として、保全・活用が求められています。

鼓童文化財団では、「鼓童佐渡特別公演」を機に、今まで以上に活用され修復・保全が進むように、宿根木集落の方々との連携を深め、地域活性化のお手伝いをしていきたいと考えています。

宿根木公会堂
（写真：竹谷正純）

役員一覧　（2012 年 4 月 1 日より）

理事長	島崎 信	武蔵野美術大学名誉教授
副理事長	山口幹文	太鼓芸能集団「鼓童」
専務理事	菅野敦司	（株）北前船 取締役
理事	浅野昭利	（財）浅野太鼓文化研究所 理事長
理事	髙野宏一郎	佐渡市長
理事	森 千二	音楽プロデューサー
監事	荒井久夫	税理士
監事	佐藤一行	（株）北前船／（有）音大工 監査役
評議員	五十嵐實	税理士、日本自然環境専門学校長
評議員	関原 剛	協同組合ウッドワーク 顧問
評議員	青木孝夫	（株）北前船 代表取締役社長
事務局長	山口康子	（株）北前船 取締役

事務局・スタッフ一覧　（2012 年 4 月 1 日より）

佐渡振興部	上之山博文、十河伸一、山中津久美、佐々木千恵
事業開発・推進部	山中津久美、上之山博文
顧客サービス部	山口康子、大井キヨ子、春日志津、齊藤直美、十河佐智子、辻小夜
研修所運営部	石原泰彦、千田倫子
国際交流部	菅野敦司
経理・総務部	山中津久美、高津万理
調査研究部	菅野敦司、千田倫子、山口康子、上之山博文

2011 年度 寄付者一覧

2011 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までに寄付をくださった方々は以下の通りです。（敬称略。1 口 1,000 円）

345 口　河内寿美子
300 口　高野正
120 口　藤本常一
100 口　五十嵐實
45 口　松永政雄
30 口　蘭情、原雅理、佐々木愛、北村幸治
ウェブログ修学旅行、伊藤富喜子、浅野昭利
青山雅彦
20 口　山後マツエ、武井京子、加藤正子、
深浦小学校閉校記念事業実行委員会、
春本博章、伊藤正依
10 口　細野美津子、大倉喜久江、山﨑延子、岩本光世
成田住弘、蓑輪永世、花田祐司、木村真理子
渡辺光喜、渡辺一枝、吉田恵子、山本玲子
山副孝雄、山岸稔秋、もちや家具店、宮本光
三嶋影子、本田正、中川満晴、高久昌彦
佐藤惇、佐々木一男、酒井清孝、小平木の実
熊谷正義、木村光江、北見治、菊江伸二
加納よう子、鹿島泰明、小見秀男、大竹幸一
太田厚生、浦上卓美、市野ユキ、池辺晋一郎
計　1,330,000 円

※ 年次報告書への名前掲載を希望しない方の寄付金額、
および 10 口以下の方の寄付金額の小計　799,923 円
2011 年度　寄付総額　2,129,923 円
2011 年度　義援金総額　209,818 円

2011 年度の鼓童の会

支援会、特別支援会会員はご希望によりご名義を掲載いたします。2011 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までにご入会いただいた方々は以下の通りです。（敬称略）

◎支援会　新穂印刷、（公財）弦地域文化支援財団
◎特別支援会　前田和慧
年次報告書への掲載を希望しない方　特別支援会 2 口

［2011 年度会員数］
友の会 857 名、後援会 191 名、支援会 2 名、特別支援会 3 名、賛助会 350 名、Friends of Kodo 会員 GroupA 7 名、GroupB 8 名　会員総数 1418 名
※お一人から複数口、複数年の会費をいただく場合があり、会員数と会費収入額は一致いたしません。

たくさんの寄付および会費等のご支援をいただき、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

ご支援のお願い

鼓童は、佐渡から国内外のあらゆる地域へ太鼓を携え旅することを活動の核としています。また、これまで蓄積した経験を社会に還元することは、鼓童が創設当初から変わらずに描き続けてきた理念です。鼓童の創造活動は公演の入場料収入やご協賛によって支えられ、鼓童文化財団の公益的な活動は、趣旨にご賛同くださった皆様からのご寄付や「鼓童の会」会費が主な活動源となります。

鼓童はどのような社会・経済情勢下でも地道に活動を続け、より多くの方々に音楽芸能を通じて日本の伝統文化の素晴らしさをお伝えすることが使命であると考えております。今後とも鼓童グループの活動に対し、皆様の格別のお力添えをお願い申し上げます。

ご支援の方法

1）「鼓童の会」へのご入会

鼓童の様々な活動情報をお送りするほか、公演へのご招待、先行予約、グッズの割引など、会費ごとに異なる特典をご提供します。会員となって継続的なご支援をお願いいたします。
（英語でのサービス”Friends of Kodo”もございます。）
友の会（年会費 3,000 円）、後援会（年会費 10,000 円）、支援会（年会費 50,000 円）、特別支援会（年会費 100,000 円）、賛助会（特別賛助会費 30 万円／会員期間 3 年間･定員 350 名）
ご入会案内は鼓童ホームページよりダウンロードしていただけます。また「鼓童チケット予約サイト」よりオンラインでご入会いただけます。

2）ご寄付

一口 1,000 円で随時お受けしております。年に 10 口以上ご寄付をいただいた方は年次報告書にご希望によりお名前を掲載させていただきます。ご送金には郵便払込み、またはクレジットカードがご利用になれます。
郵便払込みをご利用の場合、郵便局備え付けの払込用紙にお名前、ご住所、（10 口以上の場合はお名前掲載のご希望の有無）をご記入の上、郵便振替口座［00690-9-25829（財）鼓童文化財団］宛にご送金ください。
クレジットカードの場合、寄付申込書の書式をご利用ください。鼓童ホームページよりダウンロードしていただけます。

※ 2011 年 11 月 24 日より、当財団への支援金（寄付金及び鼓童の会会費）については、所得税の優遇措置の対象となりました。また、お住まいの自治体によっては、住民税も対象となります。

3）鼓童文化財団発行図書のご購入

当財団の出版物には『職人の技法ー佐渡のたらい舟』（鼓童叢書 1 ／ 2003 年刊）、『いのちもやして、たたけよ。ー鼓童三〇年の軌跡ー』（2011 年刊）がございます。出版事業は収益につながるものではありませんが、鼓童の活動を通して貯えてきた経験や知識を、広く社会に還元するための取り組みです。「鼓童オンラインストア」よりお求めいただけますので、ぜひご協力をお願い申し上げます。

公益財団法人 鼓童文化財団
「2011 年度年次報告と 2012 年度の計画」
2012 年 4 月 10 日発行
発行責任者：島崎信、編集：山口康子、レイアウト：智恵子ウエルズ

公益財団法人 鼓童文化財団：
〒952-0611 新潟県佐渡市小木金田新田 148-1 鼓童村
TEL. 0259-81-4100 FAX. 0259-86-3631
Email: zaidan@kodo.or.jp
http://www.kodo.or.jp